

# 「市民」という概念

## 0、目次

- 1、はじめに
- 2、ヨーロッパにおける「市民」
- 3、日本における「市民」
- 4、これからの「市民」
- 5、むすびにかえて

## 1、はじめに

「市民」——辞書を引くまでもなく、至極当然のように使われている単語である。しかし、こういった単語は往々にして多義的であったり、曖昧であったりで、ともするとひとつの解釈や定義のみがひろく世間に流布していることがある。

本勉強会では「市民」という概念が歴史的・思想的にどのような変遷を辿ってきたのかを考察し、現在日本で使われている「市民」がどういうものかを明らかにしていきたい。

## 2、ヨーロッパにおける「市民」

### i、古代ギリシアにおける「市民」

紀元前 8 世紀頃、ポリス（都市国家）が成立

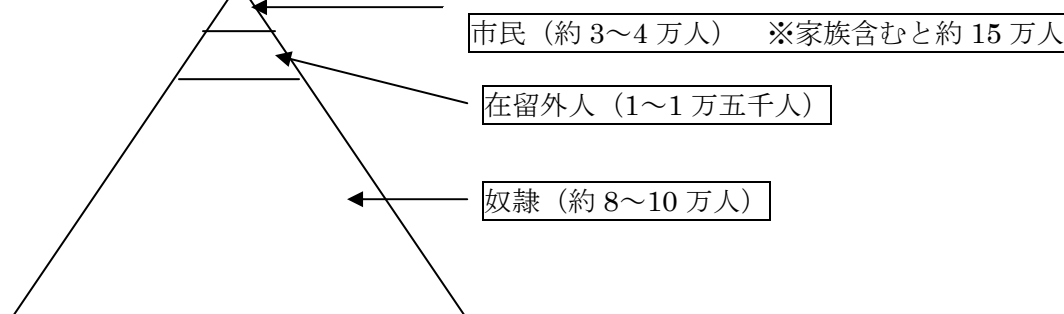
→紀元前 6 世紀から前 4 世紀にかけて完成（Ex）アテネとスパルタ

ポリスの特徴

- 自由と自治を理想とし、市民の間における平等を基本とする
- 厳格な身分社会
- 成員の共同防衛体

「市民」身分を制限→「市民」は一つの特権的な身分（団結心の強い排他的集団）

(図 1) アテネの身分構造 (アテネの人口 約 20~30 万人)



## ii、中世西ヨーロッパにおける「市民」

10、11世紀頃、中世都市の成立（←農業生産力の向上、商品生産の発展など）

「市民」→商人や手工業者たち

→最初は、自らの生活基盤を固める

⇒自らの利益のために、都市の自治をはじめとする諸権利を要求

「市民」の自由→無制限、無条件ではない

諸侯や貴族などの支配者層からの自由と引き換えに、厳しい「市民」集団の規律に従わなければならない。（Ex）都市法の制定、自衛のための負担義務など

「市民」⇒排他的な、団結心の強固な特権的集団

## iii、近代西ヨーロッパにおける「市民」

イギリス・フランスにおける「市民」概念

個人の自由に基礎を置く←近代の自然主義思想

- 自由と平等との関係
  - 責務・個人の自律性
- ←→ 社会全体における適切な関係

ドイツにおける「市民」概念

- 自由・平等・権利・責務などの概念は共有
- 自然主義思想には否定的→民族や国家を強調

☆「市民」概念の重層性

古代的な徳をもった「市民」→ギリシア・中世西ヨーロッパ

自由、民主主義などに価値を置く近代的な「市民」→近現代西ヨーロッパ

⇒両者はコインの表裏であり、そのバランスが肝要

## 3、日本における「市民」

日本・西ヨーロッパ諸国など違い、近代に至るまで「市民」という体系だった概念は少ない。→本格的に論じられるようになったのは戦後以降

## 変遷

1950年代、草分け的な市民運動の始まり

1960年代、安保闘争→「市民主義」の起こり

1970年代、公害反対運動、消費者運動の活発化

1990年代、一連の官僚・官庁による不祥事 (Ex) 薬害エイズ問題、住専問題

→「市民」というキーワードが再び脚光を浴びる

⇒「地球的市民」や「世界市民」などといった用語の頻繁な登場

「市民」・・・私的な権利や関心から出発し、反政府的・反権力的な立場にたった、ある種の政治的自覚をもった個人であり、将来において我々が目指すべきプラスイメージのモデル。

## 背景にあるもの

- 「市民」を西ヨーロッパ世界の歴史的概念から分離し、「近代市民革命」がもたらした「近代社会」の産物として普遍化
- マルクス主義による進歩史観



「私民」の登場

「私民」・・・公共の責任、責任精神をもたず、ひたすら「私」の権利や利益を追求  
＝近代的な「市民」としての側面のみを強調

⇒「公共性」が必要

## 4、これからの「市民」

「公共性」とはなにか？

「士風」、「愛国心」、「リベラル・マインド」？

→一義的・断定的に決定するのは困難

⇒歴史的経緯をふまえた、広範な議論が必要

## 5、むすびかえて

以上、「市民」という概念を歴史的・思想的に遡って概観してきた。「市民」という比較的に身近な言葉を改めて考慮しなおすと、ヨーロッパ諸国と日本両国の認識のギャップが厳然と横たわっているように思える。それは上記で見えてきたとおり、両国間の歴史的発展

等を含んだ産物であろうから、ヨーロッパ諸国で生まれた「市民」という概念を絶対視し、日本にはそういう概念がない、だから、日本は遅れているとはいえないだろう。

しかし、私は別に「市民」という概念は特殊なものであり、日本には根付かないと思っているわけでは決してない。むしろ、これだけひろまった言葉であるなら、何とかして日本なりの「市民」概念なるものを創造していきたいとさえ思っている。その際、キーワードとなるのはやはり「公共性」だろうが、その事を扱うのは次の機会に譲りたい。

---

[参考文献]

佐伯啓思 『「市民」とは誰か』 PHP 新書 1997 年

成瀬治 『近代市民社会の成立』 東京大学出版会 1984 年

今井弘道（編著） 『「市民」の時代』 北海道大学図書刊行会 1998 年

町田博 『市民と政治社会 改訂版』 創成社 2004 年

吉田傑俊 『市民社会論』 大月書店 2005 年